

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 豊橋市立青陵中学校

種 別 中学校

所在地 〒440-0016

豊橋市牛川町洗島108番地の1

E-mail seiryo-i@toyohashi.ed.jp

Website _____

児童生徒数 男子303名 女子289名 合計592名

児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

伝統文化

3. 活動内容

All Fight の精神で取り組む色別団活動を通して

豊橋市立青陵中学校

1 ねらい

- (1) 学級対抗競技・集団行動などの練習や実際の演技を通して、学級・縦割り団の団結や ALL Fight の精神を養う。
- (2) 体育祭の実践を通し、運動に関する関心を高め、意欲的に大会を盛り上げようとする気力や体力の増進を図る。

2 ねらい達成のために工夫した点

- (1) 縦割りボーナス点を設ける
色別縦割り平均点方式を導入することで、他学年を本気で応援する場面を設定する。
- (2) 時間と場所の確保【青陵タイム】
青陵タイム(7限)と朝練の時間と場所を確保することで、縦割りクラスごと応援やアドバイスを増やす。

3 実践

(1) 縦割りボーナス点

「縦割り」といっても、青陵中学校は1年6クラス、2年6クラス、3年5クラスとクラス数

が異なるため、色別縦割り方式を採用している。生徒集会で3年の各クラスの代表にくじを引いてもらい、その色ごとに分かれる。一つの団だけ1年と2年のみになってしまうが、平均方式にすることで不利にならないようにしている。縦割りボーナス点を採用している種目は、長縄と全員リレー、大玉運びである。色で分かれるため、ハチマキを用意し、当日は自分たちの団カラーのハチマキでそれぞれ他学年を応援できるようにしている。

(2) 時間と場所の確保

本校の団活動はクラス数が異なるため、色別の縦割りになる。そのため、青陵タイムの設定や色

別団で作戦を立てられるような時間の確保をし、練習計画を立てている。また、朝練の期間を設けることで、クラスごと縦割りボーナス点に関わる長縄の練習を熱心に取り組んでいる。3年や2年が同じ団の1年に縄の回し方を教えたり、跳び方のコツを教えたりする姿も多く見られた。

日付	曜日	種目	主な行事	学年	始業前 7:30~ 7:50	1	2	3	4	5	6	青陵タイム 15:15~ 15:45	執行部	種目実行委員	各係	学級		
30日	月	5	月曜授業⑥⑤④③ 全校練習スタート	1 2 3	学級朝練							全校練習 開閉会式練習 ラジオ体操 長縄	種目実行委員会 係会③	全体練習 指揮	棒取り 騎馬戦 進行準備	準備	【練習】 長縄 全員リレー 学年種目 【作成】 不織布 (学級旗)	
31日	火	4	学年練習	1 2 3	応援団練習 学級朝練	2年学年練習②			1年学年練習②			大玉 リレー種目 学級	全体把握 準備	応援団 進行準備				
1日	水	3	全校練習	1 2 3	学級朝練							全校練習 棒取り・騎馬戦	種目実行委員会 係会④		全員リレー 400&800mR 進行準備			
2日	木	2	全校練習	1 2 3	応援団練習 学級朝練	1年練習予備				全校練習 開閉会式 応援団 大玉		大玉 リレー種目 学級	開閉会式 進行準備 全体指揮	各種目 進行準備				
3日	金	1	体育祭準備 種目実行委員・ 係リハーサル⑤⑥	1 2 3	応援団練習 学級朝練				全校練習 予備			準備 種目実行委員・係のリハーサル	準備&リハーサル					

応援団



青陵中学校では伝統を引き継ぎ、愛校心をもち、青陵中学校生としての誇りをもった生徒の育成をねらいとし、応援団活動が行われている。

応援団は1年生の5月、希望者による体験入団があり、体育祭から活動がスタートする。最後は3年生の青陵祭で活動を終える。青陵中学校の応援団は平成4年から始まり、今年で25年目となる。体育祭の応援団演舞だけでなく、平成23年度から、青陵祭で全校演舞も行われるようになった。全校演舞は、青陵祭の目玉となる一方で、東日本大震災で被害に遭った、東北の方々へエールを送ろうという思いから始まった。今では、団長から、新団長への世代交代をする『継承式』を取り入れたこともあり、全校で行う演舞を通して、3年生から後輩たちへ伝統を継承する場としての意味をもっている。

夏みかん並木

青陵中学校では、毎年1月に夏みかん収穫作業が行われる。青陵街道沿いに植えられた約110本の夏みかん並木は、昭和35年の5月頃に、「郷土への奉仕活動を！」をテーマに当時の生徒会役員の発案で、校区の青陵街道に産地でもある香り豊かな夏みかんを植えたのが始まりである。このことがテレビで紹介され、詩人のサトウ・ハチローさんが「きいろが きいろが かがやきになる」という夏みかんの詩を書いてくださった。先輩方による地域の自然を愛し、緑を育てる活動を引き継ぐ夏みかん並木は、緑化委員会を中心に育てられていた。数年前までは、全校生徒で収穫作業を行っていたが、現在は生徒会が中心となりボランティアを募集し、福祉委員会と、環境委員会が協力をして収穫作業、磨き作業を行っている。収穫した夏みかんは、地域の福祉施設に届けている。



また、長野県の飯田東中学校もりんご並木を育てていることから、りんごと夏みかんを通じた交流が行われている。長野県の飯田市で中学生が大火事の焼け跡にりんごの木を植えた話をヒントに、当時の生徒会役員が「地域に広がる活動をしよう」と提案し、まだ舗装のされていなかった街道に学級数と同じ38本のりんごの木を植えたところから、りんごと夏みかんを通じた交流が始まった。毎年冬が近づくと飯田東中学校からりんごが送られてくる。りんごは、全校生徒分はないため、りんご抽選券を用意し、抽選で当選した生徒にりんごとお礼用の紙を渡している。その後、青陵中学校からも収穫した夏みかんとお礼の手紙を送っている。

代々手入れを続けている夏みかんの木は毎年実をつけている。黄色く色づいた夏みかん並木は、地域にのどかさや美しさを漂わせる青陵街道のシンボルにもなっている。しかし、落ちた実が交通の妨げになったり、交通量が増えて排気ガスの被害を受けたりしていることも事実である。伝統を守っていくことは容易なことではないけれど、地域の方に見守られながら、青陵中学校の生徒の手で町の美しさを彩る夏みかん並木を守っていきたい。

(2) 活動時間について

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）